

原市場村電話史

飯能市立博物館 学芸職員 波田 尚大

本年 4 月の今月の一品では「デルビル磁石式壁掛電話機」を取り上げましたが、その際に旧飯能町で電話交換業務を開始したのは明治 44(1911)年 12 月 26 日ということを紹介しました。今回は、現在開催中の特別展「原市場村秘史—受け継がれる記録と記憶—」に関連し、原市場村の電話に関する歴史を紹介します。

昭和 7(1932)年 1 月 19 日の『官報』第 1513 号に「逓信省告示第 70 号」が掲載されています。これによると、昭和 7(1932)年 1 月 21 日から原市場村郵便局で「電話通話事務」が開始されたことが記述されています。『飯能人物誌』によると原市場村郵便局の開局は明治 35(1902)年であり、30 年が経過しています。

当館蔵の「原市場村役場 電話加入権台帳」(原市場村役場 No.475)には、昭和 22-23(1947-1948)年に新規開設した電話の電話番号が記されています。大字原市場が 8 軒、大字下赤工が 1 軒、大字赤沢が 1 軒で、原市場村郵便局と原市場村役場の電話番号は記されていません。内訳を見ると、材木店が 4 軒、病院が 2 軒、織物工場が 1 軒、他に原市場村農業会(農業協同組合の前身)や埼玉銀行原市場支店(埼玉りそな銀行の前身)が確認できます。

昭和 26(1951)年 3 月付の「電話増設に関する請願書」(原市場村役場 No.554)は原市場村村長と村議会議長の連名で作成したもので、電話増設の理由として即刻に連絡或は報道を要する場合が増加していること、小学校 3 校への事務・保健衛生についての連絡の能率向上を見込むためだとしています。そして、昭和 28(1953)年 2 月に原市場中学校・原市場小学校・赤沢小学校・中藤小学校・吾野村南小学校、原市場巡查部長派出所や村長宅、日用品を販売する商店など合計で 16 軒の電話が増設されました。『原市場村広報』第 10 号では、「電話開通」と題してそれぞれを紹介しています(画像)。

交換手を必要としない、自動式の電話が飯能以で使用できるようになったのは昭和 36(1961)年 3 月 19 日のことです。原市場村が飯能市・東吾野村・吾野村と合併したのは昭和 31(1956)年 9 月 30 日で、合併後も電話の増設は続きますが自動式の電話は長く導入されませんでした。そのため、昭和 45(1960)年に「原市場地区電話自動化促進協議会」が結成され、陳情書を飯能電報電話局、そして電電公社へ提出しています。そのかいあってか、原市場地区の電話が自動化されたのは、昭和 49(1974)年 2 月 13 日のことで市内局番は 7 番でした。



画像 昭和 28(1953)年
『原市場村広報』第 10 号より電話番号紹介